

平成28年度 学校自己評価表 米子松蔭高等学校

学校教育目標 「社会で真に役立つ実践的な人材の育成」	
①	自主自立の精神の涵養 責任と義務を尊重しつつ、自ら進んで目標に向かって努力する精神を養う。
②	人間性の陶冶 規律を守るとともに、人の苦しみや悲しみを正しく理解し、適切な行動のできる豊かで調和のとれた健全な人格の育成をめざす。
③	勤労を尊重する精神の育成 勤労を尊重する精神を養い、社会に貢献しようとする意欲を育成する。
④	進路指導の充実 生徒の興味・適性・能力を尊重し、適切な進路の決定ができるよう指導の充実を図る。
⑤	学習指導の充実 わかりやすい授業を心がけ、生徒の適性に応じた指導に努める。
⑥	生活指導の充実 生活面の指導を大切に、正しい服装容儀、規律ある生活態度で生きる姿勢を育成する。
⑦	部活動の充実 顧問と生徒が目標に向かって共に努力してゆく中で、協調性・責任感・忍耐力を養う。

本年度の重点目標
建学の精神に基づく特色ある教育を行い、社会に有為な人材育成に努める。知・徳・体のバランスがとれた人作りを目標とし、学習指導、生活指導、部活動に力を入れる。生徒の人的成長を促し、生徒・保護者の夢につながる進路指導を行い、その成果により本校の社会的評価が高まり、本校が発展することを目標とする。

評価について A 達成できた B 概ね達成できた C やや不十分な点あり D かなり改善の余地あり E 全く不十分 () 評価せずまたは 評価できず

学年分掌	平成27年度末の状況	平成28年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○ (教務) 各種講演会・研修会を含めた学校行事を見直し、平成28年度年間行事計画を作成した。 ○ (図書) レイアウト変更、整備を完了し、利用のできなくなった資料については廃棄を進めた。「生徒が足を運びたい図書館」を目指した環境整備に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導の充実をさらに図る。 ○ 授業時間の確保に努める。 ○ 朝読書企画の定着を図る。 ○ 図書館の広報活動に努める。 ○ 図書館の授業支援の定着と回数の増加に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒による授業アンケートを年二回実施し授業力向上を図る。 ○ 教職員の出張等届の提出を原則2週間前までとする。 ○ 生徒の自発的な活動となるよう、クラス役員に協力を求める。 ○ 図書館からの情報発信の回数増加に努める。生徒の学習意欲、読書意欲を喚起するような図書館でのイベントを企画する。 ○ 教科に関連した資料のさらなる充実を図るとともに、生徒、教職員への広報に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> A B C C C 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一学期末に第一回を実施した。第二回は二学期末実施予定である。 ○ 提出状況はおおむね良好である。今後も継続して協力をお願いしたい。 ○ 課外の取り組みだが集中して読書する環境になっていない。強化週間などを設けて定着を図りたい。 ○ 生徒が主体となった情報発信が難しかった。2学期は多くのイベントと組み合わせることで生徒が中心となり企画をしたものを効果的に広報したい。 ○ 教科に関連した資料の充実を努めた。広報については、生徒が中心となり、楽しみながら読書活動と図書館の良さを伝えていけるように努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> A A B B B 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二学期末に第二回のアンケートを実施した。年二回の実施により、経過が示され授業者の参考となった。 ○ 届けが2週間前までに提出され、時間割変更をスムーズに行えた。 ○ 強化週間を設定し啓発に努めた。クラスによっては集中して取り組む姿勢がみられた。 ○ 文化祭では図書館のイベントと組み合わせることで生徒が主体となり、図書館の資料を使って解いていくクイズなどを企画、運営、広報をした。 ○ 教科に関連した資料が充実してきたため、資料を利用して図書館で行われる授業が増加した。その都度生徒への広報にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 効果的な実施時期の検討。 ○ 次年度も継続して早めの提出を求める。 ○ 生徒の自発的な活動になるよう工夫する。 ○ 生徒が主体となった図書館でのイベントの回数の増加に努めるとともに、生徒が楽しみながら学習できるような内容を充実させていきたい。 ○ 様々な教科と連携し、引き続き、授業で使える図書館として資料の充実をはかりとともに教職員に向けた広報に努めたい。
	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有意義な新入学生宿となるよう、継続して指導を行っている。 ○ 挨拶、服装、学校規定靴の使用、校内での携帯電話使用の禁止、社会ルールやマナーの理解や生徒指導部および担任の指導を中心に、継続して根気よく指導中。 ○ 全校集会での呼びかけやクラスでの担任指導を継続している。 ○ 被害者情報の提供と注意呼びかけ、交通ルール遵守の指導を継続している。 ○ 引き続き関係教員との連携を密にして対処・指導を行っている。 ○ ホームページの有効活用を呼び掛けている。 ○ 来年度は学校視察を行い、本校の生徒指導の役割をたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣を身につけさせる。 ○ 生徒が安心して通うことができるよう指導に努める。 ○ 問題行動に対して迅速適切に対処し、生徒の立ち直りと問題の拡大防止をはかる。 ○ 全教員で指導に取り組み温度差をなくす。 ○ 保護者の理解を得て、協力してもらうようにする。 ○ 学校視察を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入学生宿を通して学校生活に早く慣れさせる。 ○ 挨拶の徹底を全校集会やルームなどで呼びかけるとともに、通学指導などで教員からも積極的に声をかけてもらうようにする。 ○ 服装規定の遵守のため服装指導を徹底する。 ○ 学校規定カバン使用の指導を徹底する。 ○ 学校内での携帯電話使用禁止を徹底する。 ○ 社会のルールやマナーを理解し守るよう指導する。 ○ いじめを許さず、見逃さない。 ○ 登下校中に事故や被害に遭わないよう安全指導を徹底する。 ○ 問題行動に際しては関係教員との連携を密にし、適切な処置をはかる。 ○ 生徒指導は基本的に全教員で行うことを確認する。 ○ 保護者への文書配布や松萌会活動との連携を密にする。 ○ 生徒指導を徹底して行っている学校の視察を行い、本校の指導に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> B B B B B B B () 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 継続してルーム、通学指導などで声をかける。 ○ 基本的なマナーについて全校集会などで全体指導を行う。 ○ 様子を見て立ち番指導を増やすなど、粘り強い指導を行う。 ○ 全校集会や各クラス担任指導を継続して行う。 ○ 交通ルールについて再度徹底する。継続して立ち番指導を行う。 ○ 概ね対処できている。 ○ 再度、教員間での認識確認を行う。 ○ 保護者宛ての文書が行き届いていないことも多いので、ホームページを有効利用してもらう。 ○ 2学期以降に予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> B B B B B () () 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入学生宿で、学校生活に早く対応する効果は出た。 ○ まだまだ積極的に挨拶ができないので、引き続き指導していく。 ○ 概ね達成できた。男子の新制服の着こなしの徹底が出来ておらず教員間での確認が必要である。 ○ 携帯電話を朝礼時に提出していない生徒がまだいるので、全員提出をするよう声掛けが必要 ○ 普段より担任を中心に生徒の状況を把握して、概ね適切に指導・対応ができています。 ○ 被害者情報等の連絡をして、身の安全を第一に注意喚起した。交通安全指導は十分行ってきたが、一部守れない生徒もいたため立ち番を増やしていきたい。 ○ 迅速に対応できた。 ○ 生徒指導部内での学校規則の理解・把握は概ねできている。これを基盤に全教員への徹底をはかしていきたい。 ○ ホームページを有効活用してもらう。 ○ 来年度は学校視察を行い、本校の生徒指導の取り組みに生かしていきたい。 ○ 本年度は実施せず。 私学学校視察と重なった為
就職指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の能力・適性に応じた受験先の指導は勿論のこと、2社目からは生徒の希望先の職場見学に行かせる。 ○ 生徒に多くの企業について詳しく知らせるため、夏休み中に複数の企業の職場見学を推進する。 ○ 家庭学習を推進するために、学校での取り組みのさらなる充実を行なう。 ○ 卒業生の職場での状態を少しでも早く把握し、早期退職を防ぐため、4月から県内の追指導を行なう。 ○ 繋がりのある指導体制を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人ひとりをよく理解し、能力・適性に応じた進路指導に努める。 ○ 職業観の養成に努める。 ○ 学力向上に努める。 ○ 早期退職防止に努める。 ○ コミュニケーション能力の向上に努める。(企業が一番求めているもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「進路総合評価」「進路適性検査」を参考にし、担任又は就職・教育支援担当者、カウンセラー及び部活動顧問、家庭と関係機関との連携を密にし、個別面談を重ね、適切な進路指導に努める。 ○ LHRを活用した進路学習・進路講話及び合宿、見学、体験、業者によるセミナーを通じ、生徒が自主的積極的に自分の進路に向けて行動できるように導く。また、本年度は進路合宿の意義を教員目録、生徒目録、企業目録で熟考し、必要性の方向性を模索したい。 ○ 就職問題集・漢字テキストを配布し家庭学習を推進しながら、基礎力診断テスト及び毎週行なう漢字テストで実力を把握し、「パワーアップ講習」「就職特別講習」「就職夏期講習」等で補い、就職試験に備える。 ○ 県内外の卒業生の就職先を訪問し、追指導を行なう。また、旧担任及び部活動顧問と連携し、仕事の継続を説く。尚、在学中は内定者を対象にした校長講話・進路講話等行ない、定着するように導く。 ○ 学校全体指導体制で行なう。就職指導部としては2年時にLHRを活用して、コミュニケーション能力の養成を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> B B B C B 	<ul style="list-style-type: none"> ○ まだ途中ではあるが、生徒の能力・適性に応じた受験先の指導に努めている。 ○ 6月・7月の保護者向け説明会・生徒向け講話など、あらゆる機会に応募前の会社見学の大切さを説明してきた。今後も2社目受験の生徒については応募前の見学をさせたい。 ○ 学校での取り組みは成果をあげている。また、もっと家庭学習を充実させる必要がある。 ○ 残念ながら、今年も早期退職者がでた。「忍耐力」の一言で片づけられない内容もあり、実状リサーチする必要がある。 ○ 3年生は2年次よりLHRを利用して強化してきたつもりだったが、結果が出ていないと思われる。2年次よりスタートし始める体制はいいと思うので本年度は具体的に実行に移せるよう学年と相談して行く。 	<ul style="list-style-type: none"> A B A A A 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 求人数が多い年でもあったので、生徒個々の能力・適性にあった企業のマッチングがスムーズであった。 ○ 応募前職場見学させ受験するよう促し、納得して応募させているつもりだったが、応募前職場見学しても、しっかりと企業研究が出来ていない生徒もいるようである。今後の課題としたい。 ○ 最低限の学力は入社試験に必要な要素で、入社後も実務で問われる場合もあり、学力面で生徒たちが就職先で苦労する事が予想される。早期から試験対策をして内定につながる様に今後も指導していきたい。 ○ 早期退職は5、6月に多かったがそれ以降は歯止めがかかった様に思える。早期退職防止の追指導を行い、企業との関係を強化していきたい。 ○ 好景気を背景に新入社員教育の仕方も賛否両論ある。新しい文化がすぐに生まれる時代なので、教員側の勉強・理解も必要不可欠である。上手に取り入れコミュニケーション能力の向上に努め、企業側の意思も理解させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ たとえ好景気であっても、評価が「A」であっても大切なことは「生徒の能力・適性に応じた受験先の指導」で企業のホームページではない。生徒・保護者に理解を促したい。 ○ 生徒には早め早めの方向性の確立し、夏休み中の企業見学を促す。また、好景気故に安易な内定・選定がなされないように配慮していきたい。 ○ 誰の為の勉強で、なぜ努力が必要なのかを伝えることに力を入れた。 ○ 就職するという構えを再度伝えることに力を入れた。 ○ 社会に出てから生徒達が困らぬように、コミュニケーション能力育成についてはまずは教員が深く掘り下げて勉強する必要がある。今後も2年生進路学習LHRの内容を強化したい。

学年分掌	平成27年度末の状況	平成28年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
進学指導部（普通科）	<ul style="list-style-type: none"> 進学説明会における講演内容など、保護者・生徒が必要としている情報に基づいた内容を検討する必要がある。また、指導部、担任、教科担当間での情報交換、共通理解を通じ、より適切な進路指導が行える態勢を作る必要がある。 学習習慣の確立とともに、いかに学力の向上・定着を図るかにについての検討が必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導部、担任、教科担当、そして保護者間の連絡・連携をより密にし、生徒一人ひとりに対するきめ細やかな進路指導を行うことにより、生徒の目標達成の可能性を広げる。 継続的な学習習慣、目標を定め主体的に学ぶ姿勢を確立させることで、受験やその後の勉学に対応し得る学力の向上と定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進学説明会や講演会、保護者懇談会を催し、保護者への情報の提供と共有を深める。 定期的に普通科担当で連絡会を設け、情報交換を行うことでより適切な指導を目指す。 必要に応じて個人面談を行い、学習や部活動・志望進路の状況を把握し、適宜指導が可能な状況を作る。また生徒が進路に関する情報を入手しやすい環境作りを推進する。 授業を中心とした学習活動、また放課後講習や課題を通して継続的な学習習慣を身につけ、さらに自主学習を習慣化させるよう指導していく。 各種検定試験や模試を積極的に受験し、資格取得と自ら学習目標を設定しその達成に向け努力する姿勢を身につけさせる。 	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保護者説明会や進学講話で、必要な情報を保護者・生徒へ提供できたと考える。担当者間の連絡協議の場をなかなか設定できなかったが、今後は3年生の受験も始まるため、担当者が共通理解を深め情報交換できる機会を増やす。今後も担任の個人面談をはじめとし、生徒の状況の把握に努め、さまざまな進路情報誌などを活用し、生徒の進路学習に役立てることを目指す。 特進コースでは模試を一つの目標に据え、日々の授業への真摯な取り組みをさらに喚起する。文理選抜・総合進学コースでは放課後課題によって家庭学習習慣をつけるとともに、いかに学力の定着を図るかにについての検討が必要と考える。また検定についても勉強への主体的取り組みのひとつとして、科全体で推奨していく必要がある。 	<p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進学説明会や進学懇談会などを通じて、保護者生徒への必要な情報の提供を行うことができた。 3年生の受験指導など、進路指導において指導部での情報交換、連携を図ることができた。また「スタディサポート分析報告会」を年2回実施し、生徒の現状把握と今後の対策について検討する機会を持つことができた。 担任による個人面談、また総合的な学習での進路指導を通じ、生徒の進路志望の状況の把握を行うことで指導に役立てることができた。 課題の提出状況の把握など、担任と担当者間の連携によって、課題の取り組みを習慣化させることができた。 1月の漢字検定は1、2年生の多くが受験した。指導時間不足など検討すべき問題はあがるが、今後できるだけ各種検定受験に臨ませるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 進学説明会における講演内容など、保護者・生徒が必要としている情報に基づいた内容を検討する必要がある。 普段から積極的に情報交換を行い、共通理解を図りながらより適切な進路指導が行える態勢を作る必要がある。 担任との面談の結果、指導が必要と思われる生徒については指導部との連携のもとに適切な対応・指導ができる態勢を強化する必要がある。 課題をすることにより学習習慣を身につけるとともに、その課題学習内容をどのように授業に組み込み、学力の定着を図るかにについての検討が必要と考える。 各種検定の積極的な受験を促すため、全員受験の実施を前提に、受験時期や指導内容を検討する必要がある。
進学指導部（専門学科）	<ul style="list-style-type: none"> 夏期講習の方法や進学コース以外の学科試験受験者への対応方法について、引き続き検討していきたい。 生徒の進路選択への意識高揚と新テスト導入の動きに対応した学力の養成を目的として、現行のマーク式校外模試に加えて記述式模試の導入を検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習の習慣化、学力の向上を図る。 学習成果の確認につながる取り組みを行う。 受験手続きの指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進学情報の提供を行うことにより、様々な入試形式の正しい理解と、目標とする分野・学校の研究および比較検討の機会を作る。 進学面接を実施し、個々の進路希望の把握と、段階に応じた適切なアドバイスの提供に努める。 長期休業中や放課後の講習を実施し、積極的かつ継続的に学習する姿勢の定着を図る。 校外模試の実施および事前・事後の指導を通して、目標を持って計画的に学習に取り組む環境を作る。 担任と連携して出願手続きの指導、確認を行い、受験に備えさせる。 	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>()</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進学情報誌については、学年や時期を考慮してより効果的なタイミングで配布するように努めた。 3年生進学希望者を対象に行う個人面接や進学懇談では、情報の伝達やアドバイスのみならず、保護者・生徒との意思の疎通を徹底する必要がある。 昨年度までの反省を踏まえ、夏期講習は学年やコースによって日程をずらす、テキストを指定する、などの試みを行った。夏期講習をより効果的なものとするための見直しを継続していきたい。 「基礎力診断テスト」「実力判定テスト」の事前学習の徹底を図るとともに、模試のデータを活用したわかりやすい進路指導を目指す。 1学期中に出願手続きを行うケースはなかった。 	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料の配布や業者主催の進学説明会の案内を通して進学情報の収集を呼びかけるとともに、情報誌の活用方法を進学通信で紹介し、配布資料の有効活用と生徒の意識高揚を促した。また、2、3年生の進学希望者とその保護者を対象に進学懇談を行い、情報提供とアドバイスに努めた。進学懇談の内容については報告書を作成し、担任との共通理解を図った。 放課後講習の実施については、教科担当を中心に適切に行うことができた。夏期講習については、日程調整により授業時間数自体は減少したが、国・数・英3教科をバランスよく組むことができた。 学習到達度と大学・短大の対照表を学年の廊下に掲示し、校外模試に対する目標設定を促した。新たに導入した「実力判定テスト」「実力診断テスト」の活用について教員対象の説明会を行い、共通理解を深めた。 担任と連携しながら適切かつ迅速に出願手続きを進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在固定で実施している進路ガイダンスについて、より効果的な時期や形式などを検討したい。 放課後講習や夏期講習の方法について、引き続き検討していく必要がある。また、講習を通して身につけた学習姿勢が継続できるよう、声かけや指導を継続していくことが大切である。進路決定後の学習指導方法についての検討も急務である。 校外模試の分析報告会の参加を呼びかけ、教員が共通理解と連携の意識を持って1人1人の生徒に対応していく土壌づくりに努めたい。生徒に対しては事前学習用教材を十分活用するよう指導を徹底する必要がある。 入試形式の多様化、インターネット出願の導入が進む中、担当者は今まで以上にそれぞれの出願方法の理解と確認に努める必要がある。
人権教育推進部	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育全体推進計画は、毎年、見直しをしているが、近年、大幅な改定は行っていない。生徒の実態もいくらか変化し、新たに導入すべき観点や手法もあると考えられるので、全般的に見直した方が良いように思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の生徒の実態や今日の人権教育の在り方をより反映した人権教育全体推進計画策定を行う。 人権教育全体推進計画に則りつつ、各学年の生徒の実態に応じた柔軟な学年部人権教育年間計画の策定と人権学習LHRの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業全体会での保護者や人権教育関係者の意見にも耳を傾ける。 推進部会をできるだけ多く開いて、現場の意見を取り込みながら、人権教育全体推進計画の策定を行う。 人権教育全体推進計画を踏まえつつ、各学年部で課題や悩みなども分かち合いながら、それを年間計画や指導案に反映させる。 	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業全体会において人権教育全体推進計画についての意見を聞くことができたので、それを策定に生かしていきたい。全体推進計画のための推進部会がまだできていないので、2学期以降、実施していきたい。 学年部で協力していただき、現在のところ、順調に進んでいるように思う。今後も実態を踏まえたLHRを実施できるように努めていきたい。 	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて、人権教育推進全体計画について部会で話す機会を多くは持てなかった。しかしながら、県や全国の人権教育の状況の変化も踏まえ、案を作ることができた。 学年部の協力のおかげで、生徒の実態を踏まえた人権教育LHRを実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 2016年は、いわゆる、障害者差別解消法、部落差別解消推進法などの人権に関わる法令が成立し、人権尊重社会を実現するための勢いがついたように思う。この好機を捉え、本校でもより一層、人権教育を推進していきたい。

学年分掌	平成27年度末の状況	平成28年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
環境保健部	<ul style="list-style-type: none"> 各教室の清掃や学期ごとの大掃除などでは、熱心に清掃に取り組む姿勢が見られる。教室以外の清掃や部活の清掃にも注意が必要。 ゴミの分別はかなり徹底されてきているが、まだ分別を理解できていない生徒、教員もいるので今後も指導が必要。 環境美化に取り組む意識は少しずつ育まれていると感じるが、電灯のスイッチ破損やゴミの投棄など自らの生活環境を守るようとする意識にまだ欠けている生徒が見られる。環境美化、環境保全に取り組む意識を育てる必要性を感じる。 各講演会、研修会を行っているが、生徒が積極性に欠ける様子が見られるので、内容を吟味するとともに、環境や健康に対する意識を高めるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化、環境保全に努め、勤労を尊重する精神、社会に貢献しようとする意欲を育成する。 生徒の健康保持・増進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教室の掃除の徹底。 美化の日を設定し、環境美化の推進を図る。 学校周辺の地域美化活動を実施する。 省エネ、ゴミの分別などを通して、環境にやさしい生活を考えさせる。 性教育の充実（1年生対象講演会）（職員研修会） 救急救命蘇生法研修会 環境教育講演会 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日々の清掃や美化の日、大掃除の取り組みなど校内美化の取り組みはできるようになったが、省エネ、ゴミ分別などがまだ不十分である。トイレと階段の清掃に重点を置いてみたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日々の清掃はもちろん、学期ごとの大掃除、美化の日などの全校一斉清掃に対する取り組みなどにも教員、生徒が熱心に取り組んでいる様子が見られるようになった。部室の清掃など、部活で行う清掃がゴミの分別など、不十分な点が残るので、今後の改善に取り組みたい。 献血セミナーを開催した。献血が可能な年齢に達している生徒数は少ないが、教職員も含めて今後につながるものになったと感じる。救命救急蘇生法研修会は献血セミナーへ振替、環境教育講演会については次年度開催予定です。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教室の清掃や学期ごとの大掃除などでは、熱心に清掃に取り組む姿勢が見られる。教室以外の清掃や部活の清掃にも注意が必要。 ゴミの分別を理解できていない生徒、教員が多くなってきたように感じる今後も指導が必要。 環境美化に取り組む意識は少しずつ育まれていると感じるが、電灯のスイッチ破損やゴミの投棄など自らの生活環境を守るようとする意識にまだ欠けている生徒が見られる。環境美化、環境保全に取り組む意識を育てていきたい。 各講演会、研修会を行っているが、生徒が積極性に欠ける様子が見られるので、内容を吟味するとともに、環境や健康に対する意識を高めるべき。
学年分掌	平成27年度末の状況	平成28年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
教育相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 支援体制の充実 ① 学年主任を中心とした学級・級・生徒支援体制の定着。学習支援の個別対応が体制化できなかった。連携会議・ケース会議が一部の生徒・保護者に留まった。 ② SC・SW等の支援体制が定着化し、相談件数が増えた。 サポステ連携が定着化し、早期の進路相談ができた。 入学時からの進路相談の必要性あり。 医療・福祉機関連携が定着化した。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援体制の充実 ① 入学時からの連携作り ② 学校全体として支援理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援体制の充実 教科担当⇔担任連携を深め、支援の早期対応につなげる。 教育相談・学年担当の先生方を活用・協力をしていたが、生徒ニーズの多様化に対応。 外部機関（医療・福祉等）を交えた連携会議を定例化していく。 研修会・講演会等の参加を積極的に促す。 SC・SW・サポステ連携を通じて学校全体としての支援理解・学びを深めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援体制の充実 1学期終了～各教科担当・各担任からの申し出を受け、2学期以降につなげる。 学年の教育相談担当を活用するための情報交換会の設定。 教育相談・支援担当の先生をはじめ、他教科・他部会の先生方の参加を求めたい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援、とりわけ学習支援に関しては教科担当のみに、その指導負担が増え、連携会を十分に持つことができなかった。 学年主任・担任が支援中心となり、担当先生方の活用・連携をいただく機会が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画記載内容の検討。 年度当初に、支援役割の検討。 個別対応の多様化・連携会議ケース会議等の増加傾向に対応・参加するための校内連携の進め方を検討する。
学年分掌	平成27年度末の状況	平成28年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 新しくチャレンジしたことを定着させるためにも継続した活動が必要である。 生徒会活動が学校全体の活動であることを生徒、教職員含め学校全体に周知していただけるように活動する必要がある。 学校行事等を円滑に運営していくために、他分掌との関わりを密に持つことが必要となる。意思疎通がはかられ、今後さらに活動の幅が広がっていくと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 執行部を中心に各クラス中央委員と学校行事を充実したものにす。 運動部・普通科生徒の執行部への勧誘 ボランティア活動の呼びかけをし、生徒の参加を促す。 他分掌と生徒会執行部のお互いの要請等により活動を計画・実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ祭において執行部および中央委員が連携し活動することができた。これからの体育祭・文化祭も充実したものになるように計画、準備を進めたい。 12月に行われる生徒総会で決定するが、それまでに声掛けや活動に参加してもらうなどし、活動内容を知ってもらう必要がある。 ボランティア活動は適宜案内し、多くの生徒が参加している。 生徒指導部と連携し、伯耆大山駅で自転車の施設確認や呼びかけを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各行事において執行部が中心となり、滞りなく実施できた。今後も新たな試みや、見直しを図りながらよりよい学校行事としていきたい。 運動部・普通科の生徒会執行部も増えてきている。今後も継続して学校全体の取り組みであることを意識付けしていきたい。 各種ボランティア案内を行い、多くの生徒がボランティア活動に参加している。 他分掌との話し合いの場や活動など連携して活動できた。より充実したものになるように、今後も内容の検討をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> よりスムーズに生徒会から全校生徒へ伝える手段を検討する必要がある。そのために各クラスの委員長、副委員長、中央委員との連携を図りたい。 また、時期的な活動にならないように、継続的に話し合いの場を持ち、生徒会が主体となって取り組む環境を作っていく必要があると感じた。
学年分掌	平成27年度末の状況	平成28年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
総務	<ul style="list-style-type: none"> (防火・防災) 昨年度は2学期に火災避難訓練と津波避難訓練を1回ずつ実施した。 (管理) 施設・設備・備品の管理は概ね行っている。 (入試) 受験生のわかりやすさや事務処理の効率性において改善の余地が残っている (広報) 様々な説明会やイベントが活発に行われたが、それらを有機的に関連付ける点で工夫、改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が安心・安全に学校生活を送れるように、また、災害から生命、身体を自らの力と協力で守れるようにする。 安心・安全な学校生活を送れるよう施設・設備・備品を管理する。 円滑に入学試験に関する業務を遂行する。 本校の実績と魅力を受験生、保護者はもちろん、できるだけ多くの人に理解してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に火災避難訓練、2学期に地震避難訓練を行い、地震避難訓練については津波避難も想定して行う。 備品等を整理し、管理を正確に遂行できるよう、工夫する。 入試に関する事務処理を整理し、中学生や中学校の先生にとって簡潔で分かりやすいものへ引き続き改善をすすめる。 入学案内、ホームページ、オープンスクール、説明会、各行事の特性を生かして、本校に関する情報を効果的に発信する。 	()	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に実施していないので、評価できず。 随時修繕に取り組んできたが、修理すべき個所の点検が不十分なので、点検にも配慮していきたい。 入試についての取り組みに入っていないので、評価できない。 PCの不具合などでホームページの更新が遅れたこともあったが、PCの不具合も改善されたので、今後よりスピーディーな更新に取り組んでいく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 火災避難訓練と地震・津波避難訓練を実施した。火災避難訓練の際、消火訓練の実施も検討していきたい。また、地震際に地震避難訓練が十分に生かされなかったため、反省したい。 入試の際に机・椅子の入れ替えを一部行った。必要な備品の供給が滞りなく行えた。 入試の準備などから間違いが無いよう心がけている。入試要項の質問を受けているので、今後に生かしていきたい。 オープンスクールでは多くの参加者があった。ホームページでは、トピックスなどできるだけ素早く更新に取り組んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 火災避難訓練において、消火訓練の実施を検討したい。 施設や設備の老朽化が進んでいるが、使える物は大切に使い続けたい。備品も破損を確認しながら大切に使用していく。 入試要項など、文書の記載を読み手の立場から見直し、中学校、受験生、保護者が分かりやすいものを心がける。 より魅力のある情報が発信できるように入学案内やホームページなどを構成していくための方策を、より詳細に詰めていく必要性を感じる。

学年分掌	平成27年度末の状況	平成28年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
一年部		<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の確立 ○ 学習習慣の確立 ○ 家庭との連携の充実 ○ 愛校心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早寝・早起きを推奨し、基本的な生活習慣を見直すよう指導し、遅刻欠席をなくすよう務める。 ○ 挨拶・清掃活動を通じ、お互いの人権を尊重し同時に公共心やそれを行動に移す姿勢を育む。 ○ 話を聞く姿勢、授業を受ける態度を指導する。また各審査に向けて日頃より学習意欲を持ち計画的に学習するよう指導する。 ○ 学校からの配布物を必ず保護者に渡すように指導し、回答があれば必ず提出するよう指導する。 ○ 状況に応じ生徒宅へ電話連絡し学校の様子を伝える。 ○ 学校外でも松蔭高校の生徒であることを自覚し、恥ずかしくない言動が取れるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> B C B B 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝読書の時間の見回りを継続し、遅刻欠席をなくすよう務め、始業のチャイムには席についているよう呼びかける。 ○ 公開授業に向け担任と学級生徒が意識を高めて臨むことができた。また、人権を尊重する学校生活を送れるよう引き続き呼びかける。 ○ 提出物の期限厳守、授業に集中して臨むことに対して指導しなければならぬ生徒が少数見られた。継続して指導する。 ○ 配布物に限らず、学校のHPを定期的に見てもらうよう呼びかける。 ○ こまめに電話連絡し家庭との連携が取れていた。継続して努力する。 ○ 式典の際の校歌を大きな声で歌えるようになりつつあるが、全員の声が出るよう継続して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> B B A B 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の見回りの効果もあり各クラス始業のチャイムには着席し落ち着いた状態で朝礼に臨むことができた。 ○ 毎日の清掃活動では生徒・教員が共に協力して綺麗な環境づくりを心掛けることができた。 ○ 毎時間の授業を落ち着いて臨めない生徒がまだ少数おりその都度指導を行った。提出物の期限を守り提出できるように指導を継続した効果もあり改善が見られた。 ○ 家庭との連絡がきちんとなされた。生徒を学校と家庭双方で支援できるよう心掛けた。学校のホームページを定期的に見て学校の情報を知ってもらえるよう呼びかけた。 ○ 生徒1人1人の個性は様々だが、学校行事や部活動を通じて米子松蔭の生徒らしく成長した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 継続して見回り遅刻者、服装等の乱れを徹底してなくしていきたい。 ○ 自他を認め協調性を高められるよう、今後も気持ちの良い挨拶と意欲的な清掃活動が習慣化できるよう指導を継続したい。 ○ 毎日の学習習慣の定着を目指し指導を継続したい。 ○ 次年度も達成できるよう継続して努力する。 ○ 学校内外を問わず松蔭高校の生徒である誇りと自覚を持ち制服の着こなしやマナーを守れるよう継続的に指導したい。
二年部		<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の確立 ○ 学習習慣の確立 学習態度の改善 進路についての意識を高める ○ 生徒指導の徹底 ○ 社会性・人間性を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 欠席・遅刻のないように、朝読書の時間に見回り、始業前には全員を席に着かせる。 ○ あいさつや服装の指導を徹底する。 ○ 宿題や提出物の確認・徹底。 ○ 集中して学べる環境作りの強化。 進路学習や職場体験を通して意識を高める。 ○ 非行・麻薬防止講演会を開催し、指導を受ける。 ○ 家庭との連絡を密にして生活の乱れを未然に防ぐ。 ○ 服装・礼儀・言葉遣いの徹底指導。 ○ LHRを活用し学習する。 ○ 学年集会で指導する。 ○ 人権学習で他者理解を深め、人を思いやる心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> B B B B 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二学期は、全体的に中だるみするので、気持ちを引き締めて継続指導を行う。 ○ 進路を意識させた学習指導を行う。 進路学習を通して具体的な将来の目標を見据えた指導を行っていく。 ○ 服装指導時はもちろん、日々の指導も丁寧に行っていく。 ○ 体育祭や文化祭などの学校行事を通して、モラルやルールを守り、他者と協力しコミュニケーションを大切にしながら社会性を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> B B B 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席が少なくなった。朝、服装を整えて、静かに席に着いて始業を待つ習慣が身についた。【朝読書、見回り指導の成果である】 進路学習を例年より早い段階で、就職・進学希望別に分けて行った。進学は早めの準備と心構えを持たせ、就職はハローワークからの講話を聞き将来の参考にした。 服装の乱れは、朝の教室前指導により以前より改善された。 あいさつや言葉遣いについては、引き続き指導していく。 学年全体が落ち着いてきた。進路に向けての意識も芽生えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 最終学年になるので、進路に向けて目標を持ち、それを実現させるためには、今何が大切かを意識して行動できるようにしたい。 生徒一人一人が、希望の進路につけるように、面談や指導を重ねて細やかに指導をしていきたい。 3年生としての自覚を持たせ、学校のリーダーとなるべく模範的な服装、生活を心がけさせる。 目標を持ち、悔いの残らないように取り組ませたい。
三年部		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の自主的活動を通じた自律的・主体的な生徒の育成 ○ 生徒の進路目標の実現を目指した進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活指導の充実 ○ 部活動や学校行事などの特別活動等、生徒の自主的活動の充実 ○ 清掃活動、整理整頓などの校内美化の徹底 ○ 模擬試験等の結果や面談を通じて個々に応じた指導方法を把握する ○ 生徒、保護者からの進路に関する相談などに速やかに対応できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> A B 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、部活動や生徒会、委員会等を通して、清掃活動や学校行事など主体的な運営ができるよう促す。 ○ 進路が定まっていない生徒に対して、保護者や進学指導部、就職指導部と連携して対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> A A 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や教務部、生徒指導部等と連携し、部活動や体育祭、文化祭などの学校行事に積極的に取り組むことができた。 生徒個々に応じた指導により、生徒、保護者が希望する進路をほぼ決めることができた。 	<ul style="list-style-type: none">